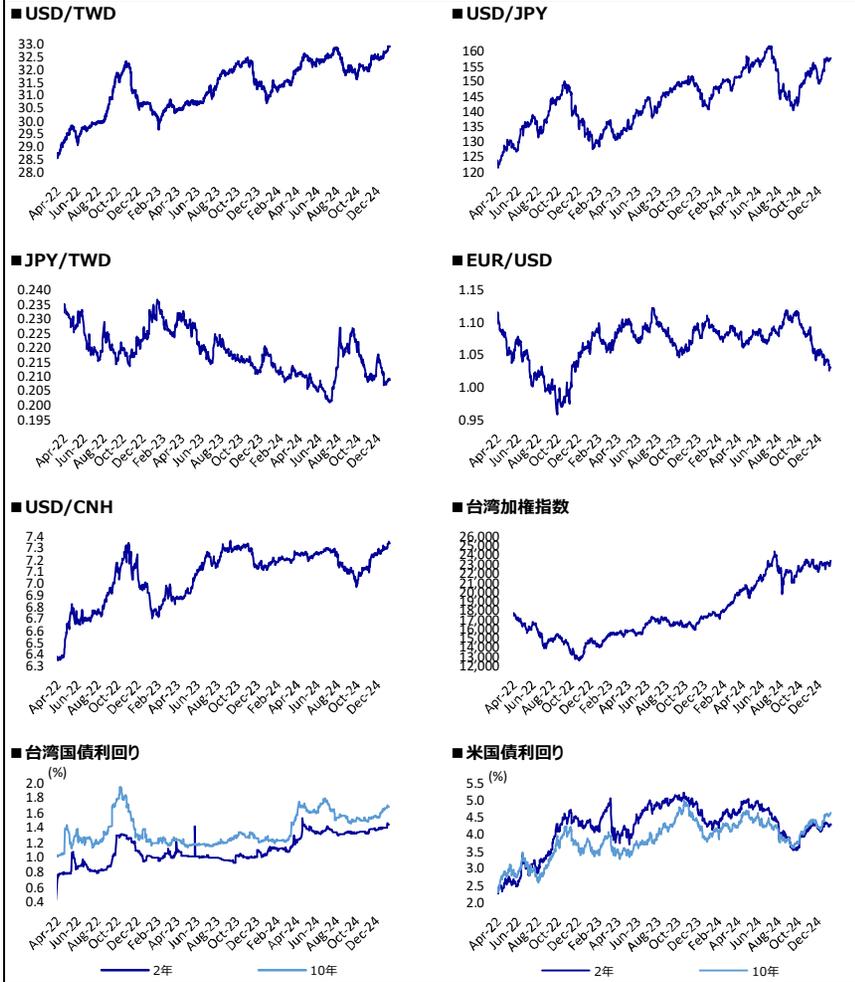


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初12/30は32.720でオープン後、米金利の高止まりでグローバルにドル買いが優勢となる中、外資による資金流出が見られ、ドル/台湾ドルは一時32.750まで上昇。12/31は、アジア通貨が全般的に弱い中、リスク資産の下落も台湾ドルの重しとなり、ドル/台湾ドルは一時32.790まで上昇。午後に入り、輸出企業によるドル売りが入り、台湾ドル安がやや一服。年明けの1/3は、株安に伴うリスク回避の台湾ドル売りに加え、人民元などのアジア通貨も軟調に推移する中、ドル/台湾ドルは32.899まで続伸。1/4は、台湾株の反発でリスク回避の動きは和らいだものの、人民元などのアジア通貨の売り圧力が強く、ドル/台湾ドルは上昇基調を継続。最終的には前週比0.60%ドル高台湾ドル安の32.917で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は431.6億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は上昇。週初12/30は157.65でオープン後、年末年始休暇で材料や参加者が少ない中、米金利の高止まりがドル買い材料となった一方、アジア通貨安によるリスク回避の円買いも見られ、ドル/円は157円を中心に上下1円のレンジ推移となり、最終的には前週比0.34%ドル安円高の157.30で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：32.780-33.020  
今週のドル/台湾ドルは小幅ながら上値を試す展開。米金利が上昇する中、アジア通貨安は引き続きドル買い材料となるが、輸出企業によるドル売りが見られた場合、ドルの上昇も緩やかになるだろう。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：156.50-158.50  
今週のドル/円はレンジ推移を見込む。米金利の高止まりと日本当局による介入に対する警戒から、レンジ相場となる可能性が高いことに加え、今週はFOMC議事録や米雇用統計を控え、方向感の出にくい展開となる予想。

今週の予定

1/6 (MON)	米11月製造業新規受注
1/7 (TUE)	台湾12月CPI、米12月ISM非製造業景況指数
1/8 (WED)	米12月ADP雇用統計、米FOMC議事録
1/9 (THU)	カーター大統領国葬のため、米株休場（債券市場は短縮取引）、台湾12月貿易収支
1/10 (FRI)	米12月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。